

わが社の『いち押し』

谷津建設株式会社

昨年6月、県が江の島にオープンさせた湘南港ヨットハウス（湘南港湾管理事務所）。手掛けたのは、当商工会議所・建設業部会に所属する谷津建設（中央区東洲野辺）だ。湘南の新たな観光シンボルとして期待される同施設は、湘南の波とヨットの帆をイメージ。屋根には数多くの3次元曲線が用いられている奇抜なデザインだ。3Dの複雑なデザインは、従来技術では再現しにくく、当初は難工事が予想された。同社ではそれを、工業系企業である湘南デザイン（緑区橋本台、工業部会員）との連携により克服。見事完成させた。そして建設業と工業のコラボという新しい可能性を示した。

■予想された難工事

今年創業100周年を迎える谷津建設は、社員数50人の中小ゼネコン。一昨年に受注したのが、江の島・湘南港ヨットハウスの建設工事だった。

もともと、1964年の東京五輪会場となった旧ヨットハウスの老朽化に伴う建て替え工事だった。「最初はこれまでの建設工事と違っていました。しかし、設計図を精査して工事をイメージするうちに頭を抱えました」と谷津弘社長は振り返る。

白を基調にした新ヨットハウスは地上2階建て。問題は2000平方メートルを超える屋根だった。湘南の美しい波をイメージした屋根は、複雑な3次元曲線だった。建築は「X」と「Y」の世界。つまり平面図と立体図を用いて工事する2次元だ。しかし、3次元曲線が示されている設計図

を見ても、イメージはおろか建築模型さえ作る手段が見つからない。

■流れ変えた電話

そんな折、谷津社長のもとに一本の電話が入った。相模原市内の試作メーカーで、知人でもある湘南デザインの松岡康彦社長からだ。

「電話の内容は別件でしたが、ついでに設計図や3次元について相談してみました。そうしたら『うち（湘南デザイン）は専門だよ』ということになりました。とりあえず設計図を渡して3次元模型の製作を頼みました」（谷津社長）。

連携で難工事を克服

「3D建築」で可能性示す



湘南の波とヨットの帆をイメージした屋根

数ヶ月後、湘南デザインが完成させた「モデリング」は、微妙な曲線も忠実に再現したものだった。3Dプリンターを使って仕上げたという。100分の1という美しいモデリングは、暗中模索を続けてきた谷津建設の谷津社長や技術者たちに光明をもたらした。

■製造業とのコラボ

こうしてオープンした湘南港ヨットハウスは、波形の局面屋根がシンボル。屋根に

は、自然光が入る開口面がある。公共施設として観光客なども見学できる。同施設は昨年11月に行われた「神奈川建築コンクール」で一般建築部門で優秀賞、さらには県建築士会賞、県建設業協会も獲得。谷津建設にとっては初のトリプル受賞となった。今回、谷津建設はモノづくり技術と建築技術を融合させた、いわば「3D建築」とも呼べる新しいスタイルを確立した。製造業にとっても、得意技術が建築分野にも活かせるという可能性を示した。谷津建設のさらなる展開が期待されるだろう。



新しい観光名所として期待される施設

相模原市中央区東洲野辺4-24-15
042175212038